

令和 6 年度第 2 回大垣市障がい者の暮らしを支える協議会全体会
「日中サービス支援型共同生活援助事業所の報告・評価について」の質疑・意見への回答

事業所名：日中支援型障がい者グループホーム綴～つづり～大垣静里

質疑・意見	質疑・意見への回答
令和 6 年度よりグループホーム等については地域住民を交えた運営協議会を開催することが義務化されたが、今年度開催する予定はあるか。	運営協議会については令和 7 年度から義務化とされており、準備を進めている段階である。
洗面台が 2 台あると資料に表記されており、現利用者 16 名に対し洗面台が 2 台というのは障害特性への配慮にはならないと思うが、実際はどのような形となっているのか。	基本的にはバリアフリー仕様となっているので、洗面台に関しても車いすがそのまま入れる形で設置をしている。そういった意味で障害特性への配慮としている。
現状としては、加算対象となるような重度の障がい者はいないということで、法人内の訪問看護の 24 時間コールで対応されているとのことだが、24 時間コールをするかどうかの判断をしているのはだれか。	看護師が判断ということになるが、現状看護師をグループホームに配置できていないため、今現在は管理者が判断している。
医療的ケアが必要な方や重度の障がいがある方にとって、何かあったときの異常の早期発見が一番大事なことだと思う。有事の際にしっかりと判断・対応できるようなスタッフの教育も大事だと思う。	緊急時の対応方法について、職員研修の中で取り入れることで体制強化を図っていききたい。 また、判断に迷った際にはデジタルデバイスを活用するなどし訪問看護と連携して漏れのない対応をしていききたい。
何か災害があった際に一番頼りになるのが、近所の方、地域の方だと思う。日頃から、広報誌の配布などいろいろな形で地域と関わりを持っておくことが大事だと思う。 事業所内だけでなく、地域ぐるみで協力しあえる雰囲気を作っておくとお互いに良い関係を築くことができると思う。	—